

# 委員会 通信

## 第22回

# 病院運営特別委員会

病院運営特別委員会委員

委員長	伊藤 信也	副委員長	土井 清司
委員	椎名 義光	委員	小川 藤男
委員	鎌形 榮一	委員	飯田 良助



病院運営特別委員会のメンバーです

## 病院の運営状況を今後も 見守っていきます

病院運営特別委員会の任期は4年です。年に2回の委員会を開催し、病院の運営状況について報告を受け、助言等をしていきます。町民が安心して暮らせるために、公立病院の果たす役割は大きく、住民に望まれる医療の提供が責務と考えます。

平成21年度多古中央病院の入院患者数は延べ3万9472人で1日平均108人、対前年比15人の増加。外来患者数は延べ5万284人、1日平均171人で



立体診断可能な新型CT

対前年比16人増加しました。患者数の増加により入院、外来の収益は増収になり、平成12年度以来9年ぶりの黒字と

なっています。一部診療抑制の解除や常勤外科医師の増員により手術対応体制の確保が大きな要因と考えられます。平成22年度についても7月現在入院患者

外来患者数ともに上回っており、増収になっています。

昨年度は本館東側に発熱外来が整備され、新型インフルエンザなど感染症対策のための対応がされています。又、CT装置も立体診断ができるものに更新され、高度医療への充実が図られています。夜間の診療体制や救急患者の受入れも医師が確保され、安心して生活できるような体制になっています。今後は地域に根ざした病院として整形外科の常勤医師の確保が望まれています。

町民が元気で健康でいられることが、多古町発展の源になります。わが町の病院を地域全体で支え、今後とも見守っていききたいと思えます。



病院東側に新設された発熱外来

多古町議会には、常任、特別、議会運営の各委員会合わせて8つの委員会があります。このコーナーは各委員会の委員長が活動の様子をお伝えしています。

## 編集 後記

◆任期中、最後の決算議会が終了しました。花形の予算議会と異なり、もう済んでしまったことと、ジミな印象の決算議会ですが、『一年間、町は住民のためにどのような施策をしてきたのか。それが本場に住民のための事業になっているのか』を点検していく重要な場です。逆に町当局側にとつては、施策の成果を披露する場ではないでしょうか。この議会での議論や討論を生かして、次の予算議会につなげていく努力が求められていると思います。◆『議会広報クリニック』：年一度、議会広報作りにはずさわっている議員や事務局員の研修会です。講師の先生は毎回同じではありませんので、逆の指摘を受けることがあります。たとえば、この編集後記について、A先生は「編集委員の思いとして必ず入れる必要がある」、B先生は「個人の考えを何でも書いて良いというものではない、無くて良い」とのこと。頭の中はパニック!?さあ、次号からはどうしましょうか?◆ぜひ、町民の皆様のご意見をお寄せください。

議会広報特別委員会  
副委員長 石渡悦子

12月は定例議会が開かれます。ぜひ、傍聴にお出かけください。日程・内容など詳しくは多古町ホームページが議会事務局まで。